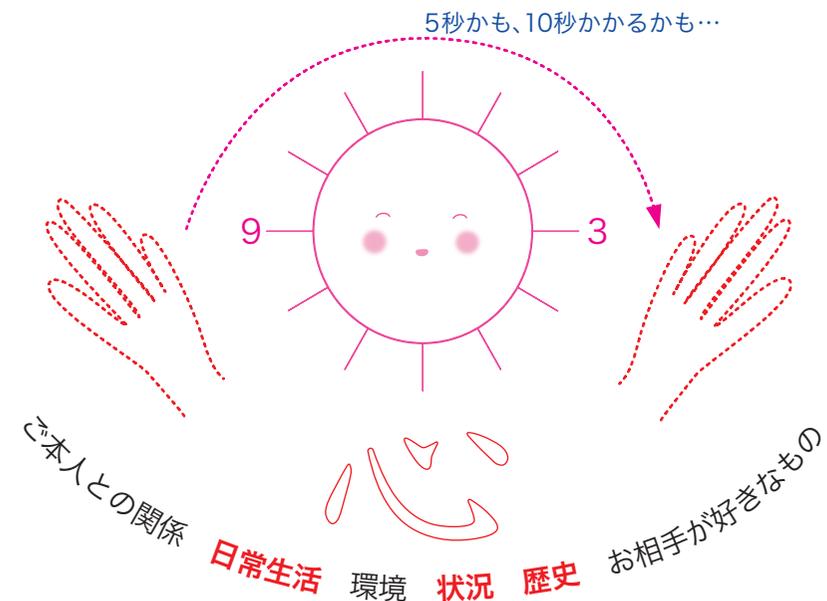


タイミングと時間を調整…

認知症状のある人と、普通の生活をしている人では、時間への対応が異なります。認知する速度が違うコトも考えられます。症状のある人の時間を意識して、サポートするタイミングを考えて、効果的に提案することで、不安が小さくなりそうです。



認知症状は《百認百様》。体調によっても、状況によっても、認知するまでの時間や、行動に移すまでの時間が異なりそうです。ご自分のタイミングではなく、認知症状のある人のタイミングを意識するようにして知恵というワザを提供してみてください。

(5)

立ち位置を変えてケアを…

認知症状のある人は、お相手の確認ができにくくなる場合があります。合気道では、相手がどのように出てくるか…という気配をとらえて、ワザを出すそうです。お相手の様子から気を感じて、やさしき知恵のワザを提案するようにします。



認知症状は、弱く現れるときもあれば、強く現れることもあるようです。短く現れるときも長く続くこともあるようです。そのときの状況を感じて、できれば、次を予測して知恵というワザを提案するようにします。経験が大きなチカラになりそうです。

(6)